

JIS X 8341-3改正概要

ウェブアクセシビリティ基盤委員会
臨時WG6 (JIS X 8341-3 改正原案検討)

主査：福田 健太郎

副査：中村 直樹

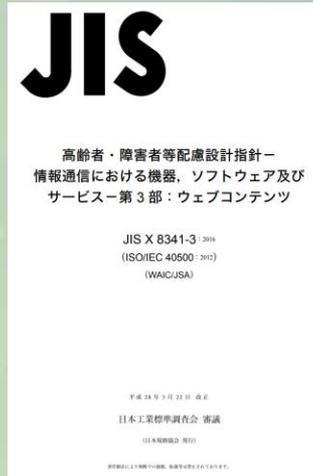


JIS X 8341-3とは？

- 高齢者・障害者等配慮設計指針

—情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ

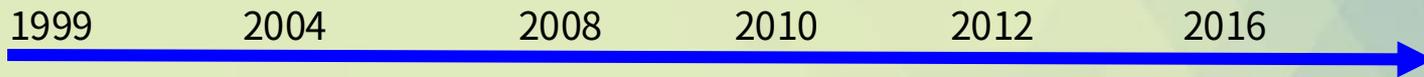
- 高齢者及び障害のある人を含む全ての利用者が，使用している端末，ウェブブラウザ，支援技術などに関係なく利用することができるように，ウェブコンテンツが確保すべきアクセシビリティの基準について規定。



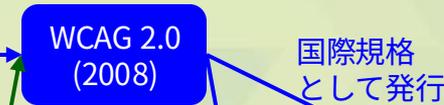
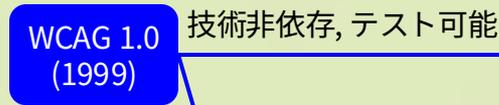
[JSA GROUP Webdesk](#)より



JIS X 8341-3の歴史 (1)



WCAG
(W3C勧告)



WCAG: Web Content Accessibility Guidelines
W3C: World Wide Web Consortium

ISO/IEC
(国際規格)



JIS
(国家規格)



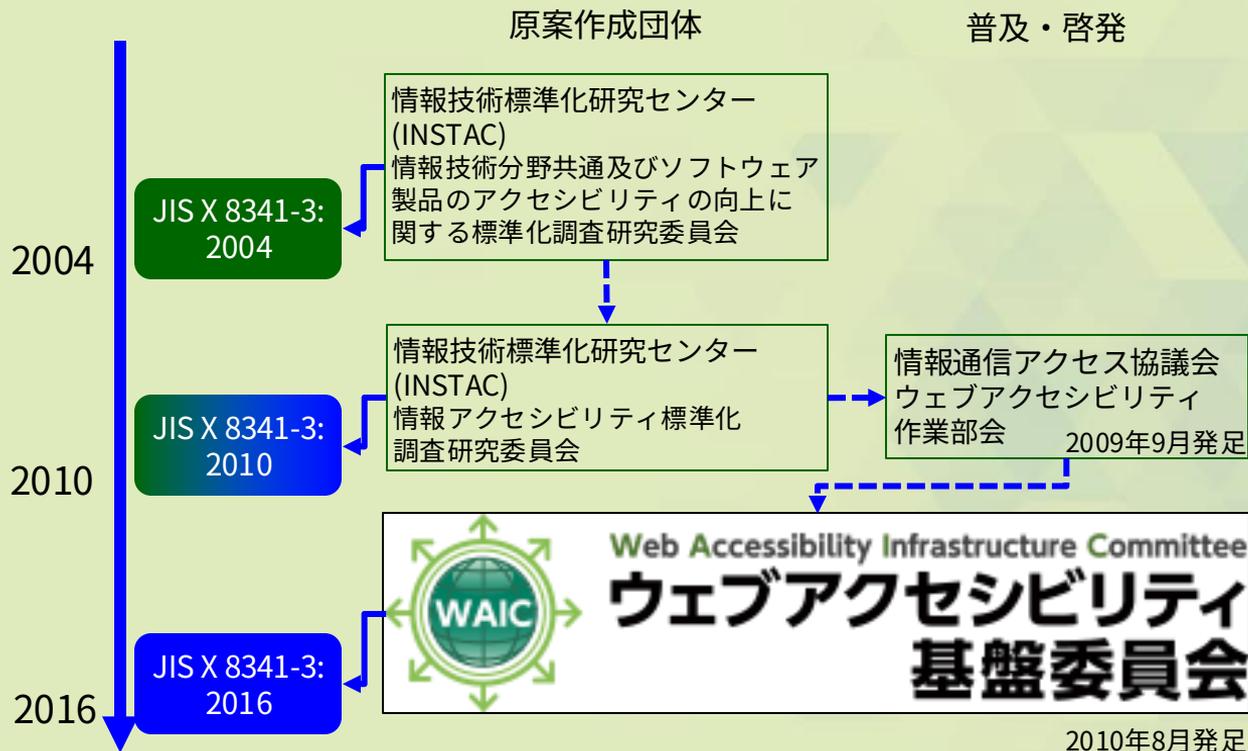
- JIS X 8341シリーズ
- WCAG 1.0などを参考にしつつ日本語固有の問題などに対応
- 情報アクセシビリティの確保・向上に関する全般的要件
- 附属書に具体的な例示を含む

- WCAG 2.0を含む形で改正
 - 技術的な要件はWCAG 2.0と一致
 - 旧規格との連続性を考慮
- JIS固有の項目
 - ウェブアクセシビリティの確保・向上に関する要件
 - 試験方法

- 国際規格ISO/IEC 40500:2012及びWCAG 2.0と同一の内容
- 旧規格との連続性を考慮
 - 附属書JA (参考) ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上のプロセスに関する推奨事項
 - 附属書JB (参考) 試験方法



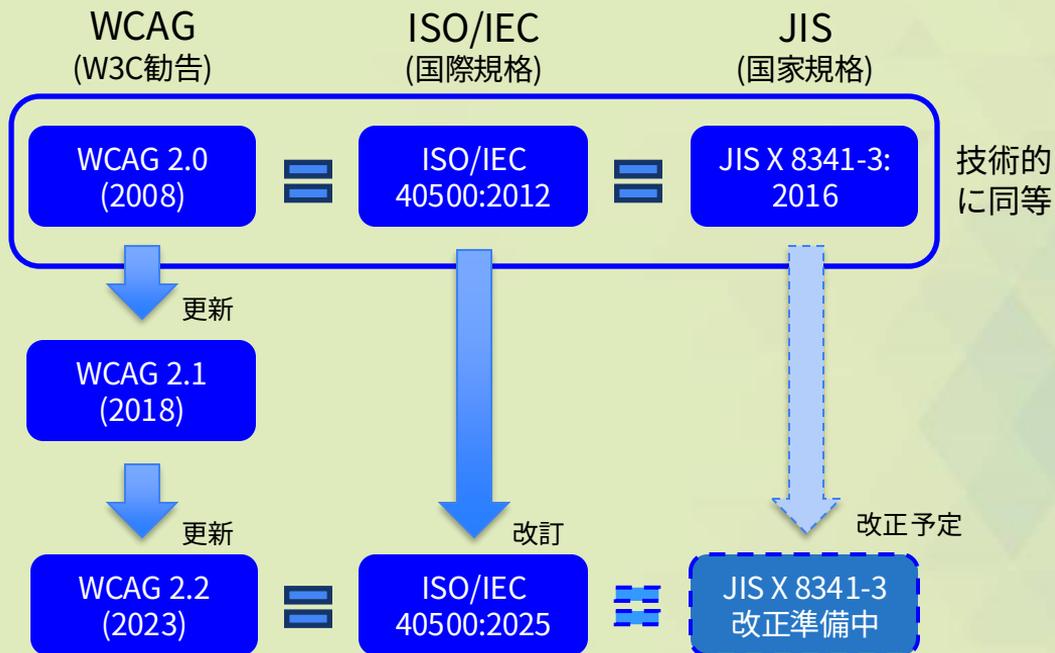
JIS X 8341-3の歴史（2）



ウェブアクセシビリティ 基盤委員会 (WAIC)

- JIS X 8341-3の理解と普及を促進
- ウェブアクセシビリティ向上に必要な基盤の構築
- 原案作成メンバー、関連企業、関係省庁（経済産業省、総務省、デジタル庁）、利用者などから構成
- [会員組織 35, 賛助会員 5](#) (2025年7月現在)
- 有識者の方々を加えて原案作成委員会を構成

JIS X 8341-3の改正に向けて



- 2025年10月にJIS X 8341-3改正原案作成委員会を発足
 - 2026年5月頃の完成を目標に原案作成中
 - 原則としてISO/IEC 40500との一致規格 (IDT) となる見込み

JIS X 8341-3の改正内容（1）達成基準

- 現在の達成基準に加えて、新たな達成基準が追加

	レベルA	レベルAA	レベルAAA
WCAG 2.1	5	7	5
WCAG 2.2	2	4	3
合計	7	11	8

- WCAG 2.2において、達成基準 4.1.1 構文解析は削除された
 - 参考：[How and why is success criteria 4.1.1 Parsing obsolete?](https://www.w3.org/WAI/standards-guidelines/wcag/faq/#parsing411)
<https://www.w3.org/WAI/standards-guidelines/wcag/faq/#parsing411>

JIS X 8341-3の改正内容（2） 附属書JA（参考）

ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上のプロセスに関する推奨事項

- ウェブアクセシビリティに関する取り組みは、継続的に実施することが重要であることを中心に全体の構成を整理
 - プロセスの例としてPDCAを挙げていたが、PDCAはあくまで手段の一つ
⇒ PDCAに依存しない構成に変更
- 公的機関だけでなく、民間での利用も想定して整理
- 取り組みの対象にあわせた推奨事項を参照できるよう構成を整理
 - 周知・広報
 - 外部サービスの利用
 - 認証機能の提供
 - Content Management System (CMS) の利用
 - アクセシビリティ補助機能の提供

PDCA: Plan (計画), Do (実行), Check (確認), Action (改善)の
4段階の繰り返しで業務を継続的に改善する方法



JIS X 8341-3の改正内容（3） 附属書JB（参考）

試験方法

- 試験を実施する際に注意が必要な項目の補足
 - 試験対象ページの恣意的な選択
 - 試験中に発見した問題点の修正と試験結果の関係 など
- 「ウェブページ一式を代表するウェブページ」の説明・例示の整理
 - 詳細な具体例がある項目とない項目が混在していた
 - ⇒ 具体例は最小限にとどめ、選択の際に必要な観点などを補足
- 達成基準チェックリスト、試験結果表示などの例の更新
 - 読み上げなども考慮した表記への変更
 - チェックリストの事例の具体化
 - 記載する技術例を最近の環境にあわせて更新
- WAICのガイドラインやFAQとの連携強化（参照や具体例の提供など）

JIS X 8341-3の改正に向けた取り組み

- JIS X 8341-3:2016への準拠が基礎となる
- WCAG 2.1, 2.2で追加された達成基準（特にレベルA, AA）については先取りして対応することも可能
- 計画的な取り組みが必要
 - 計画の策定
 - 予算、工数の確保
- 参考
 - WCAG 2.2の日本語訳：<https://waic.jp/translations/WCAG22/>
 - WAICのQ&A：<https://waic.jp/qa/>

改正JISで更新される内容

改正JISの主な強化内容

主に次の3点のアクセシビリティが強化されている

- モバイル機器
 - 画面の向き、タッチ操作などのタブレットやスマートフォンの対応強化
- ロービジョン（弱視）
 - 画面の拡大時などの対応強化
- 認知・学習障害
 - ログインやフォーム入力の省力化など

以降のスライドでは、個々の強化内容について見ていく

モバイル機器：画面の向き

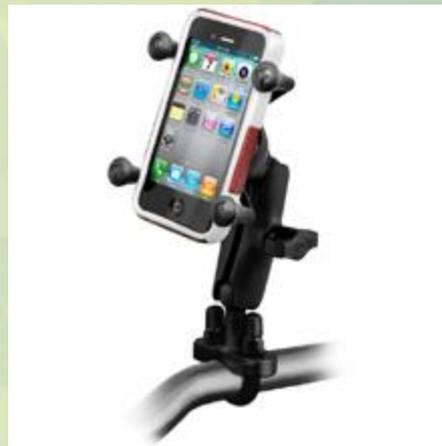
モバイル機器（スマートフォンやタブレットなど）でウェブサイトを開覧するときに、縦向き、あるいは横向きの画面の向きに、制限しない。

例えば車いすのユーザーは、固定された向きでモバイル機器を取り付けることがあり、その向きと異なる向きで固定されてしまうと、操作に支障を来す場合がある。

通常のウェブサイトではまずそのような問題が発生することはない（何もしなくても、コンテンツが画面の向きに応じて変化するため）

モバイル機器：画面の向き（続き）

スマートフォンを車いすに取り付ける
グリップホルダーの例



出典：

<https://www.pdakobo.com/review/ram/wheelchair/index.ehtml>

モバイル機器：タッチ操作

地図のようなコンテンツで、ピンチイン・ピンチアウトのジェスチャ（2本指でのジェスチャ）をサポートする場合、プラスボタン・マイナスボタンを設けて、1本指だけで操作できるようにする。

ジェスチャを利用できない人や、ヘッドポインタのような特殊な入力デバイスを利用する人でも、コンテンツを操作できるようにする。

導入するコンテンツがタッチ操作の要件を満たすかどうか、あらかじめ確認する必要がある。

モバイル機器：タッチ操作（続き）

プラスボタン・マイナスボタンの例
(Googleマップ)



ロービジョン：画面ズーム時のリフロー

画面をズームした場合に、リフロー（折り返し）されるようにする。

ズームしたときに、複数方向にスクロールすることなく、コンテンツを読めるようになる。

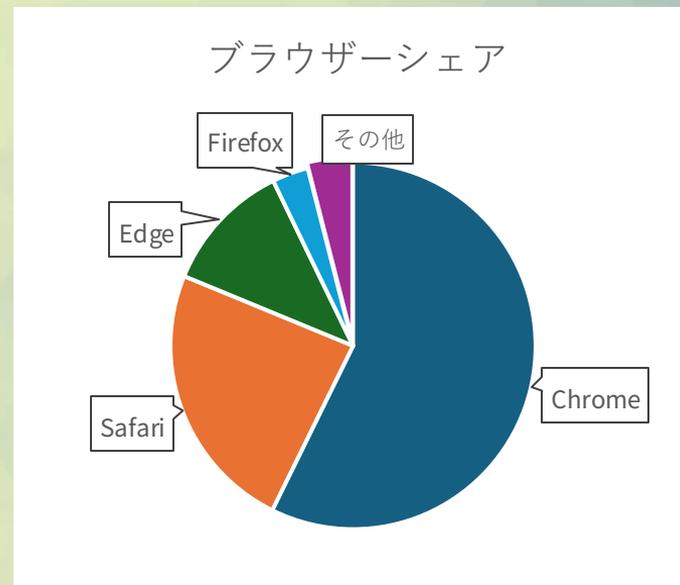
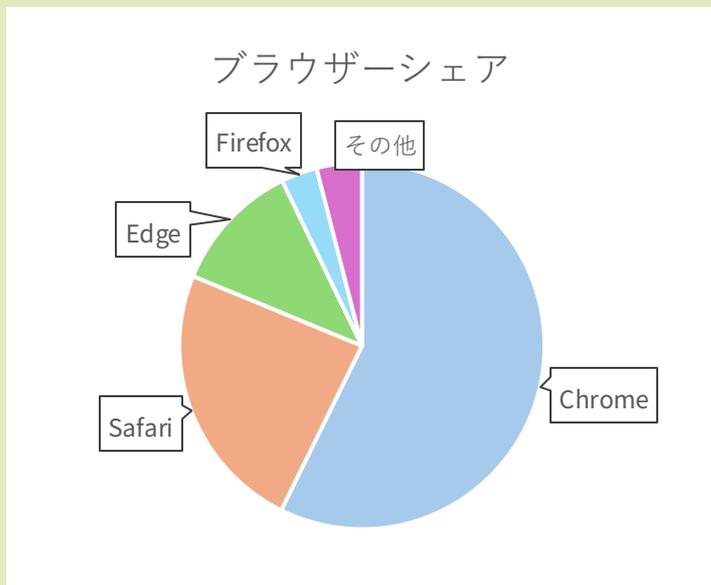
サイトの設定でリフローに対応できているかどうかを確認する。

ロービジョン：テキスト以外のコントラスト比

JIS X 8341-3:2016では、テキスト（文字）に一定のコントラスト比を設ける要求事項があったが、改正JISではテキスト以外のコントラスト比も要求される。

コントラスト比を高めることで、コンテンツの識別性を高める。

ロービジョン：テキスト以外のコントラスト比 (続き)



例えば、グラフの色も一定のコントラストが要求されるため、グラフを提供する場合は、コントラスト比を考慮してグラフを作成する必要がある。

更新担当者に大きく関係してくる点に注意。

認知・学習障害：フォームの自動入力

お問い合わせフォームのようなフォームを設置する場合、HTMLコード上でどのような入力なのか（例：氏名、住所、電話番号）なのかを明らかにして、ブラウザで自動入力できるようにする。

自動入力を可能にすることで、例えば記憶障害のある人が情報を記憶する必要がなくなる。

そのようなフォームが自動入力に対応しているのかどうか、あらかじめ確認する必要がある。

認知・学習障害：ログインフォーム

認証を必要とするログインフォームを設置している場合、例えばパスワードマネージャーによるパスワード入力を阻害しない、コピー＆ペーストによる省力化を阻害しないことなどを確かめる。

記憶障害等のある人であっても、認証を可能にする。

ログインが必要なページがある場合、要件を満たすかどうか、あらかじめ確認する必要がある。

その他：一貫した連絡先の表示

ページに質問窓口としての連絡先（例：電話番号、メールアドレス、チャットボット）を提供する場合、例えば、あるページではヘッダー、別のページではフッターのように、ページ間で異なる場所に連絡先を提供しない。

質問窓口を必要とする人が、連絡先を見つけやすくなる。

サイトのテンプレートで、一貫した連絡先の表示になっているかを確認する。

その他：ターゲットの大きさ

ターゲット（特にボタン）の大きさが、一定の大きさを保つようにするか、ターゲットが小さい場合は隣接するターゲットと十分な間隔を取るようになる。

特定の運動障害のある人でも、クリックしやすいターゲットを提供する。

ターゲットが一定以上の大きさを提供できているかどうかを確認する。